

A) 積極的に防除作業を行い、島内からの排除を目指す種類

ボタンウキクサ

サトイモ科 *Pistia stratiotes*

原産地：アフリカと考えられる

外来生物法：特定外来生物

生態系被害防止外来種リスト：緊急対策外来種

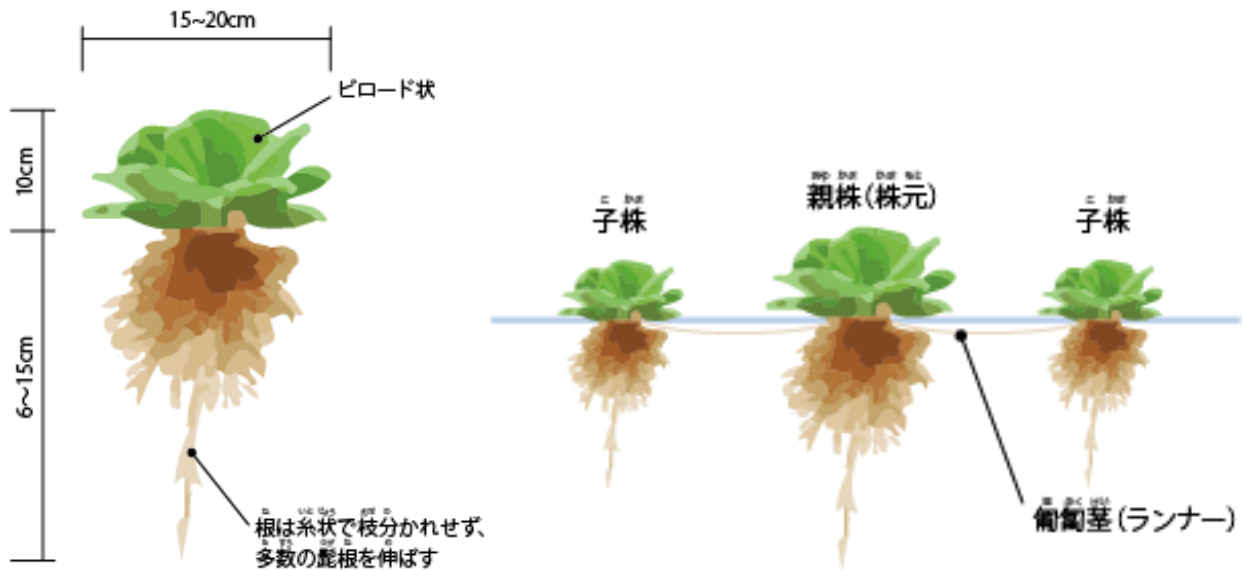
特徴

水面に浮くレタスのような植物。成長が早く、繁茂すると水面を覆い尽くしてしまう。かつて水槽用の水草として流通していた。

葉 : 先の丸い横長楕円形の葉をロゼット状につける(キャベツやレタスの様)。葉の色は白緑色で表面にピロード状の柔らかい毛が生え、水をはじく。

花 : 葉の根元に小さな花を咲かせる。奄美ではほぼ周年開花が確認できる。

繁殖 : 親株から横に匍匐茎を伸ばし、その先に子株をつける栄養繁殖が旺盛。種子繁殖も行い、種子は風、水、動物、人間活動によって拡散される。

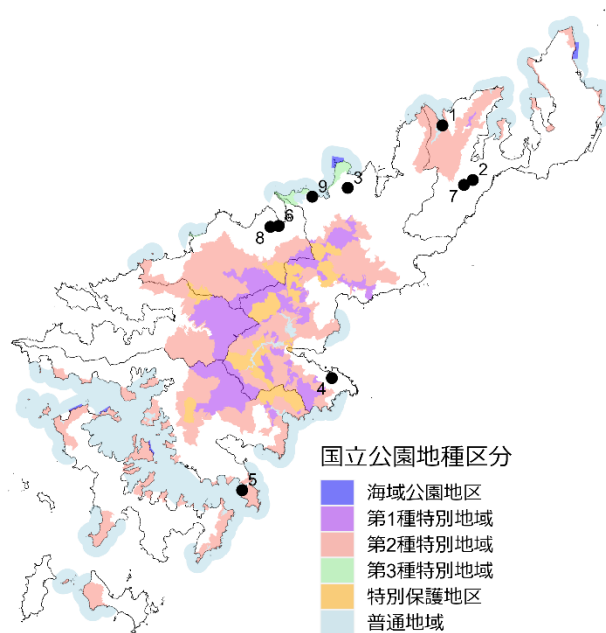




影響 : 水面を覆い尽くすように繁茂することから、水中の酸素や光が不足して、他の植物が生育できなくなるほか、他の水生生物に影響を及ぼすことが知られている。また水田に侵入し、農業被害を引き起こす事例も報告されている。

侵入状況 : 令和6年1月現在、奄美大島内では9カ所で生育が確認されている。また本種はかつて一般に広く流通していたため、特定外来生物に指定されたことを知らずに庭等で栽培し続けている人がいるかもしれない。普及啓発等により情報の収集が求められる。

ポタンウキクサ生育地点(奄美大島)
2024年1月17日現在



島名	大地点	地点名
奄美大島	1	幾里水田
奄美大島	2	加世間又水田
奄美大島	3	小宿・里間
奄美大島	4	市
奄美大島	5	ヤドリ浜
奄美大島	6	津名久
奄美大島	7	大勝
奄美大島	8	大和川
奄美大島	9	根瀬部

対策状況 : 6カ所で継続的な防除作業を実施中。他2カ所で土地利用の変化による消失を確認。モニタリングを継続している。

防除のコツ : 周年開花が見られるため、防除の時期は問わない。成長速度が速いため、丁寧な除去作業が求められる。取り残した株や土中からの新たな発芽もあるため、1ヶ月間隔での定期的な駆除作業が望ましい。